「道徳感情論」入門 --- D. ヒューム 1 とA. スミス 2 の倫理思想---

林 誓雄3(文学研究科 倫理学)

_

 $^{^{1}}$ ヒューム『人間本性論[1739-40]』からの引用・参照の際には、略号として T を用い、巻号、章番号、節番号、ならびに段落番号の順に記している。

² スミス『道徳感情論[1759]』からの引用・参照の際には、略号として TMS を用い、部番号、篇番号、節番号、ならびに段落番号の順に記している。

³ 担当した講義に使ったスライドは、http://www.ethics.bun.kyoto-u.ac.jp/~seiyu/の 「class」に pdf 化したものをアップしておきます。授業に関して、またレポートに関して何か質問・疑問がある人は seiyu@ethics.bun.kyoto-u.ac.jp まで連絡してくださいませ。

1. ヒューム道徳哲学における道徳判断の仕組み 再検討

- 1. 道徳判断とは、行為者の性格に対して下されるもの
- 2. ほとんどの道徳判断には「共感」というものが関与
- 3. 「共感」のブレを補正するための「一般的観点」という装置

[引用-1]

「ある性格が一般的に、われわれの個別利害に関わりなく考察される場合にのみ、その性格は、それを道徳的に善い・悪いと呼ぶような感じ・感情を引き起こす」(T 3.1.2.4)

◆「個別利害に関わらない」

- ⇒ 道徳判断を下す際に抱かれる感情は、判断を下す当人の(に関わる)感情ではない!
- ⇒ Q:では、道徳判断を下す際に抱かれる感情はどこに由来するのか?
- ⇒ A:「共感」を通じて、「他者」から。

共感sympathy

相手の顔つきや会話に表れる様子・態度から、その人の感情を推測し、その結果、相手と同じような感情を獲得する能力のこと (※ 注意:「共感」≠哀れみ、同情)

共感の問題点

共感は、判断を下す人の立場や状況の変化に応じて、当人に様々な感情を抱かせる。特に、 赤の他人よりも家族や仲の良い友人に対して強く働く(えこひいき)

意見の対立から、一般的観点(general point of view)へ

[引用-2]

「…我々一人一人が性格や人物を、それらが個人の特殊な観点から、現れるままに考察しようとするならば、我々が合理的な言葉によって意見を交わすことは不可能であるう。それゆえ、そうした絶えざる不一致を防ぎ、事物についての一層安定した判断に至るために、ある**不動かつ一般的な観点**を我々は定め、そして自分達の目下の状況がどんなものであれ、我々が何かを考える際には、常に自分達をその視点に置くのである。」(T 3.3.1.15)

[引用-3]

「われわれは、人物の道徳的性格に関して判断を下すために、その人物が活動する、狭い範囲の仲間たちnarrow circleへと、自分の視線を限定する。」(T 3.3.3.2)

[引用-4]

「各個人の快や利益は異なっているので、もしも彼らがある**共通の観点**を選択しないのならば、彼らの感情や判断において、合意することは不可能であったろう。この共通の観点から彼らはその対象を眺め、この観点によってその対象は、**観察者全員にとって同じように見える**のである。」(T 3.3.1.30)

道徳の4つの源泉

- 1. 他者にとって有用
- 2. その人自身にとって有用
- 3. 他者にとって快適
- 4. その人自身にとって快適

評価されている人の道徳的性格(人柄)の影響を一番善く受けていて、評価される 人のことを一番善く分かっているのは、評価される人の周りにいる「人々」に他 ならない!

まとめ

- 1. 道徳判断 = 一般的観点から性格を眺めたときに是認・否認の感情を抱くこと
- 2. ナローサークルで実際に下されている判断が、道徳判断の基準
- 3. 道徳判断を下すための「他者」の重要性

問題点

- ◆ 倫理・道徳の範囲が狭い?
 - ⇔ 道徳性の(論理的)要件として、R.M. ヘアは「普遍性」を挙げる
- ◆ 多数者の専制を容認?
- ⇒ 多数者の利益の貫徹によって少数者が抑圧されるのではないか?(トクヴィル、J. S. ミルらによる懸念) 冤罪の危険性?

2. ヒューム道徳哲学の継承・発展

アダム・スミスAdam Smith[1723-90]

- ・18世紀スコットランド啓蒙思想の中心的人物。道徳哲学者にして、古典経済学の父。
- ・『道徳感情論』[1759]、『国富論(諸国民の富)』[1776]

<u>2.1.1 アダム・スミスの共感論[1]</u>---感情を獲得するまで

- ・人間はみな、**他人の境遇に関心**をもつ。
- ・人間はみな、他人と同じ感情を自分も抱こうとする:「同情」に近い
- ・しかし、他人の胸中は直接覗き込めない
- ⇒ 想像上の立場交換

想像上の立場交換imaginary change of situation

◆ われわれは道徳判断を下すとき、**想像の中で**、自分を**他人の状況**に置いてみる。つまり、自分が**その人と同じ状況下にいたら**、どのような感情を持つだろうか?とのような行為をするだろうか?と想像する。

Cf. 「共感は、情念[そのもの]を見ることからよりもむしろ、その情念が引き起こされる立場を見ることから生じる」(TMS: I. i. 1. 10)

<u>2.1.2 アダム・スミスの共感論[2]---</u>二つの感情の比較

- ◆ われわれは、想像上の立場交換をして感情を獲得した後に、「想像された自分の感情」と、「実際に観察される他人の感情」とを比較する
 - ⇒ 比較して、両者がほぼ一致する場合:他人の感情は「適切なもの」→ 是認! 比較して、両者が一致しない場合:他人の感情は「不適切なもの」→ 否認!
- ◆ この是認・否認の感情が、スミスにおける**道徳感情**

2.1.3 アダム・スミスの共感論[3]---是認感情の伝達

◆ さらに、相手の感情との「比較」を通じて観察者が獲得した「是認」の感情が相手に 伝わると、相手は自分の感情や行為が自分以外の人に認められたことを知って、快い気持 ちになる。

2.2 他人の評価から、自分の評価へ

- ・自分には、他人への関心がある ⇒ 他人に対する道徳判断
- ・他人にも、自分への関心がある ⇒ 他人も自分に対して道徳判断をしている
- ◆ 自分は他人の目にどう映っているんだろうか?
- ・われわれは、他人から是認されることを願う結果、自分の感情や行為を、他人が是認できるものに合わせようとする。(← 「アハっ」の快への欲求が関係)
- ◆ その「他人」が誰でも善いわけではない。では、誰の基準に合わせる(べきな)のか?

2.3 「公平な観察者impartial spectator」論

[引用-5]

「それらの対立する利害について**何らかの適切な比較**をなしうるにはまず、われわれは自分の位置を変えなければならない。われわれは、自らの場所からでも、他人の場所からでもなく、また、自らの目でも、他人の目でもなく、**どちらとも特別な関係を持たず、両者の間で公平に判断**する、第三者の場所から、第三者の目で、それらの利害を眺めなければならない。」(TMS: III. 1. 6)

◆ 第三者=「公平な観察者」

【特徴】

- ・個人的利害にとらわれない
- ・個人的感情にとらわれない
- ・関連する事情に通じている
- ← われわれは、観察者としての経験、そして判断される当事者としての経験を通じて、自 分が所属する社会において、「公平な観察者」たちが実際に他人の感情や行為をどのように 判断するか学んでいく。
- → 「公平な観察者」の基準の形成!

2.4 自分に対する道徳判断---「良心」の創出

- ◆ 自分に対する道徳判断は、自身を二人の人物に分割した上で行なわれる。
- [1] 被告
- [2] 裁判官

[引用-6]

「自分が行為した同期を振り返り、それを、利害に関心のない観察者が調べるような 見地で調べる場合、この想定された公平な裁判官の是認に共感することで、自らを賛 美する。」(TMS: II.2.2.4)

われわれの胸中には**公平な観察者**としてのもう一人の自分がいて、自分の感情や行為が 適切なものか否かを判断する。われわれは、常に胸中の公平な観察者の判断に従うわけ ではないけれど、**その判断を気にしないではいられない**。そして、自分の感情や行為 に対して、胸中の公平な観察者から是認を受ける場合には安心するし、否認される場合 には不安になる。

◆ 公平な観察者 = 内なる人、人類の代表者、胸中の半神、神の代理人:良心!

3. ヒュームとスミスの倫理思想

共感と道徳感情

[1] ヒュームの共感:相手の様子から推測

スミスの共感:想像上の立場交換

[2] ヒュームの道徳感情:相手と同じ

スミスの道徳感情:相手と一致するとは限らない

客観的な視点

[1] 一般的観点:ヒューム

被評価者を取り巻く「ナローサークル」の視点

[2] 公平な観察者:スミス

胸中に形成される「利害・感情にとらわれていない、事情に通じた人」の視点

4. 横断歩道の問題から

カントの場合

- ◆ 理由が何であれ、渡ってしまうのは義務違反!
- ⇒ 義務なのだからダメなものはダメ!

ヒュームの場合

- ◆ 車にひかれる危険性がないという利益を鑑みて、渡ってしまうかもしれない。
- ⇒ その人の行為を観察する**他人が周囲にいない**という点が大きい。

スミスの場合

- ◆ 胸中に「公平な観察者」が形成されているような人は横断歩道を渡らない。
- ⇒ 周りにその行為を見ている人がいなくても、「公平な観察者」が胸中にいて、その是認を求める気持ち・否認されたくない気持ちが、横断歩道を渡らずに立ち止まらせる。

5. まとめ

- ◆ ヒュームにおける有徳な人:**情念の闘争**のうちにある存在
- ◆ スミスにおける有徳な人:**良心によって自己を反省**し、**良心の統制**に従って行為する存在

6. レポート課題など

[参考課題]

- ・道徳における「理性」と「感情」の対立について
- 道徳とは普遍的なものでなければならないか?
- ・道徳判断の対象は、「行為」か「性格」か?
- ・ヒューム道徳哲学の問題点
- ・スミス道徳哲学の問題点

授業を参考にして、以上の課題のいずれかを選んで、800字~2000字でレポートを書いてください。課題は自分で考えたものでも構いません。

参考文献

- Hume, D. [1739-40] *A Treatise of Human Nature*. Edited by Norton, David Fate. Norton, Mary J. 1st Ed Oxford University Press, 2000
- Smith, A. [1759] *The Theory of Moral Sentiments*, edited by Raphael, D. D. and Macfie, A. L., Oxford: Clarendon Press, 1976
- ・柘植 尚則[2003]『良心の興亡 近代イギリス道徳哲学研究』ナカニシヤ出版
- ・堂目 卓生[2008]『アダム・スミス 『道徳感情論』と『国富論』の世界』中公新書